

・2年間聖和で保育について学び、保育者の関わりがどれだけ子どもに影響を与えるのか、大切な存在であるのかが分かり、自分の理想の保育者像が今までよりも深くはつきりとなりました。また、子どもだけでなく保護者との関わりも重要であり、積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係を築き、保護者が安心して子どもを預けられるようにすることが必要であると学びました。また、実習などを通して、今まで知らなかった多くのことを学ぶことができたので、学んだことを生かして、保育者として、努力していきたいです。

・聖和での学びにおいて特に印象に残っていることは、子どもの自主性を大切に考える考え方です。これは、授業の中でも保育の導入や展開などで具体例を用いて大切だと教えていただきました。それを踏まえて実習を行った際には、子どもたちの興味や意欲を感じ取ることが出来たとともに子どもたちと一緒に楽しむという体験が出来ました。今後も子どもがやらされていると感じることのない、楽しいと感じてもらえるような保育を行なっていきたいです。

・2年間、聖和で過ごして学んだことは、保育の楽しさです。コロナ禍により、音楽や製作、模擬授業、スポーツなどの授業はオンラインになってしまい、思い通りにいかないことも多かったが、その分、仲間たちと音楽表現の授業などができるときはとても楽しく感じました。

・さまざまなイベントや、日々の授業を通して、日に日に保育者になりたいという気持ちが強くなっていきました。保育の知識や技術などを身につけることができたこともひとつですが、保育者になりたいという気持ち、子どもたちを愛する気持ちが増したことが、自分にとっていちばんの力になったと思います。

・聖和の学びについては、もっと実践的に学びたかったという気持ちとコロナ禍で仕方ないという気持ちがぶつかり合うような2年間でした。後悔するならば、1年での表現の授業が対面でできなかったことです。他にも対面授業ができなかった授業は沢山あったけれど、2年になってから、「この代は対面でできていないのか」、「1年でやらなかった？」などと言われることがあったからです。先生方は優しいので、出来ていない分を2年になってから授業内に取り入れてくれて助かりましたが、本来であればもっと実践的に表現力など身につけていたのかと思うと少し惜しい気持ちもあります。

・学生からの写真や動画を繋げたものを見て、コロナ禍と考えるとその中でも充実した2年間を送ることができたと感じました。制限がある中で、仲良い子たちと遊べる時には遊べたし、授業内のグループワークなども楽しく行えました。いい2年間でした。

・聖和短期大学に入学し、様々な経験をし、沢山の友達が出来ました。しかし、コロナ禍のため、十分に学生生活を送ることが出来なかったと感じます。また、友達や先生方と対面授業で、ピアノをしたり、製作をしたりすることが出来なかったことが一番残念に思います。一人でも楽しめるものもありますが、皆とだから楽しめるものを経験することが出来なかったのが心残りです。そして、その楽しさを経験できなかったのもので、これから出会う子どもたちに伝えることの難しさを感じています。しかし、聖和に入学して良かったと思います。

・元々、2年間という短い期間の中での短大生活だったにもかかわらず、コロナの流行によって大学に登校することもできない期間が多く、自分の中で本当に授業での内容が身につけているのかという不安はとてもありました。しかし、このような状況下だったからこそ、自分から主体的に取り組もうとする姿勢や少ない機会ではありましたが、友達（他者）と共に協力して学びを深めていくことの楽しさを感じ、学ぶこ

とができたと思いました。

・聖和短期大学に入学して、子ども達と向き合っていくためには愛情を持って接することが大切であると学びました。また、保護者に対しては、保護者の気持ちに寄り添って保護者支援を行うことが大切であると学びました。聖和に入学して、保育者として大切にすべきことや、自分自身が大切にしなければならぬことなど、本当に多くもことを学びました。聖和短期大学で学んだことを活かして保育者として励んでいきたいと思います。

・短い時間だったが、聖和での学びは濃いものだった。

大学生生活も、出会う人も、オンラインでの授業も、実習も、全てが初めての経験で、しんどいと思う事が何度もあった。しかし、振り返ると、周りの人に助けられながら、幼稚園の頃から憧れていた保育者としての学びを深められた2年間は、とても幸せな時間だったと感じる。また、成長できた濃い2年間だった。

春からは、聖和での学びや経験を基に、保育者として頑張りたい。”

・聖和短期大学では、保育者として大切にすべきことを学び、人として成長することができたように思います。子どもと関わること、保護者と関わることを想像しながら人との関わりを学び、人それぞれ様々な考えがあることを知って視野を広く持つことができたり、相手を受け止める大切さを感じたり、人に対する思いやり意識を今まで以上に持つことができたりと、人として大切にしなければならないことを自分で考え感じて、これから生きていく中で意識していこうと思うことができ、私自身の考え方が良い方に変わる学びがたくさんありました。

・私が聖和で学んだことは子ども第一の考え方や共感することの大切さです。聖和では子どもがのびのびと生活できるようにはどのように環境構成をすれば良いのか、どのように導入をしたら子どもが興味を持ってくれるのかなど考えながら指導案を作ったりと、子どもにとって何が1番良いのかを考えながら保育をするように学びました。そして、実習では子どもに共感することで子どもとの信頼関係が築かれ、細かく褒めることで子どもに愛情が伝わると学びました。

・2年間の学校生活は、行事や授業がなくなってしまうことが多く、モチベーションは下がる一方だった。しかし、2年生に上がり、実習の経験を積んだことで、保育士は素敵な仕事だということを改めて感じた。そこから、授業の内容が理解しやすく、イメージしやすくなった。聖和の先生方は、授業内でも実際の子ども話や自分の経験談を話してくださるので、興味深い内容も多かったように感じる。2年間は本当にあっという間で、あと1年くらいは通いたいと思ってしまうほどだが、就職先の方々の未来を前向きに捉えていきたいと思う。

・今ではとても昔のように感じるが、聖和に入った当初は、全てオンライン授業であったこと、今では当たり前前のようになくなってしまっていて忘れていたが、以前の世界ではオンライン授業は存在しなかったことを思い出し、「そういえば、オンライン授業も普通ではなかったし、席が一個ずつ空いているのも普通ではなかったな」ということを感じました。ですが、そんな普通ではない、特別な2年間を過ごし、特別な学びも得られてとても良かったと深く思います。

・1年目はほとんどがオンラインで、先生に質問しづらかったりと大変なことが多くあったけど、2年目は登校もできて、友達とも話し合える時間があったり、先生にもすぐに聞きに行くことができたりと、感染

症対策をしたうえでもコミュニケーションをたくさんとれることができたので、卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思います。

・聖和短期大学のどの授業の先生もそれぞれ大切にしており、そこから学んだ、子どもの主体性を大切にすることが私の将来の保育の基盤として大切になっていくのだろうと思いました。”

・この2年間という期間は、今まで過ごしてきた学校生活の中で一番時が過ぎるのが早かったです。保育士になりたいという子どもからの夢をこの2年間で実現するために保育についての様々なことを学んであと一歩で夢がかなうというところまで来たなと思います。登校することは本来より少なかったですが、オンラインでは、授業でも授業以外でも親身になって先生が話を聞いてくださって聖和で保育について学ぶことができてよかったと思っています。

・聖和で子どもの感性を最大限に育てることの大切さを学ぶことができました。

入学時からコロナ禍で、実習期間も大変でした。しかし、コロナ禍だからこそ経験できたこともあったと思います。その中でも、子どもが感じていることに共感し、一緒に活動しながら、そのときにできる最大限の経験が大切だと学ぶことができました。全ての実習を経験することができ、保育の学びを広げることができました。

・聖和で2年間学んだ保育を今後、保育者として生かしていきたいと思っています。

・二年間聖和で保育のことに学んできて、正直ちゃんと自分の身につけているかは不安です。コロナということもあり、実践的な授業やテストがなかったので、卒業していかれた先輩方と比べると、できていないことの方が多いのではないかと思います。しかし、勉強をすべて自分でしなければならぬ状況に置かれていたので、自学習の力はついたと思います。このようになんでもポジティブにとらえてこれからも頑張っていきたいです。

・コロナウイルスが拡大し、1年生の頃は数えることが出来るくらいの少ない日数しか登校出来なかったり、毎年行っていた行事などもまともに出来なくて、悲しい思いも正直してきました。しかし、2年間という短い時間の中で実習の日数は短くなりましたが、無事終えることも出来たし、zoom授業でもグループセッションをしてコミュニケーションも取れて話し合うこともでき、なれないこと続きでしたが、友達もできてとてもいい思い出になりました。

・聖和での2年間で、保育に関する学びをとっても深められた。私は短大に入学するまで子どもと関わる機会がほとんど無く、とても不安だったが、授業を通して子どもの特性や、関係を深めるため、子どもの発達のために有効な関わり方など、専門的なことを学び、自分の糧にすることができた。

・2年間を通して、保育の専門的知識、技術が身につきました。また、保育士としての資質のみならず、少子化が問題となっている現代社会において保育がいかに重要なものかを改めて感じることができました。保育士として子育てしやすい環境作りに貢献したいと思っています。それに加えて、自分が就職する園の保育理念に基づき、子どもがのびのびと成長・発達していくことができるよう、努めたいと思います。

2年間とても楽しかったです。”

・2年間の聖和短期大学での学びを振り返ると、コロナウイルスによるオンライン授業や、実習が想像以上に大変でしたが、最後まで終えることができたので良かったと思います。様々な授業を通して、子どもとの関わり方や、成長発達について、健康、壁面づくり、子どもに合った玩具の作成、などについて学習し、

実習の際に役立てること、これから現場に出て働く際に役立てていくことができることをたくさん学ぶことができたので、2年間の聖和短期大学での学びをこれからの保育に役立てて、より良い保育、子どもにとってよりよい関わりができるようにしたいと思います。

・聖和では、保育に関する学びをたくさん得てきました。発表や実習などの実践を通して、経験だけでなく自信も身についたように感じます。

また、保育に関する学びの他に、同じ志しをもった仲間と共に頑張ることが、なによりも力になりました。心が折れそうな日もありましたが、聖和で学ぶことができ、たくさん仲間と出会えて良かったです。

・最初から想像していた学生生活とは違ったことばかりで大変なこともありましたが、だからこそできた経験や育まれた力があると思います。授業は、保育をする上で必要な知識や考え方を学ぶことが出来ました。そして、実習を通して実際に体験し、自分の保育を考え構成することが出来たと思います。社会人になる不安もありますが、聖和での学びを活かし、自分らしく保育者として子どもの育ちを支えていきたいです。

・2年間という短い大学生活にさらにコロナで1年まともな大学生活が送れなかった2年間だったけど、オンライン授業から対面授業、実習などを通して感謝するということを改めて学びました。当たり前のように学校に通うことのありがたさ、ただでさえ多忙な保育の現場に入らせていただき沢山の経験をさせていただけるありがたさ、キリストで感謝祭など、毎日が感謝で溢れた環境は正直初めてでした。今にしかできない学生生活がコロナで潰されて、色んな我慢をさせられ、乗り越えた私たちはある意味こんな経験をさせていただけたことに感謝だと思いました。とりあえず、はやくコロナ無くなれー。

・思い描いていた学生生活とはかけ離れた日々を過ごすことになりましたが、そのような中でも、保育者を目指す仲間と一緒に学びを深められたのは、私にとって貴重な2年間になりました。聖和での学びや経験は、確実に今後の私の強みになると思っています。コロナ禍という特殊な環境のなかで、試行錯誤しながらより良い学びを提供して下さった聖和の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

・聖和短大の友人はみんなとてもフレンドリーだったのですぐに気の合う友達ができました。また、クラスが違うくても全体で受ける授業が多かったため、より一層友達の幅が増えて行ったと感じています。なので、わからないことがあればすぐに友達に聞いたり実習の時には支え合って学ぶことができたのでとても楽しかったです。

・最初の半年間は学校に登校することができず、友達とあまり親しくない中で課題やレポートを行うのにとても苦労しました。なんなら、それが大学生活の中で一番2番を争う苦しい時期だったかも知れません。少しづつ登校が始まってやっと友達と楽しくキャンパスライフを過ごせると思ったら実習が始まり、自分の保育学生としての現実を突きつけられました。正直もう1回やりなさいと言われてたら、嫌ですと即答します。だけど、その実習があったからこそ子どもについて真剣に向き合って楽しい保育をしたいと思うことも出来ました。

・1年生はほとんど学校に通えることがなくオンラインでしたが、パソコンの使い方やオンラインでの授業の方法（ポータルへの提出やzoomの使用方法など）についていくことに必死で保育者になるという実感が

ほとんどありませんでしたが、2年生になり本格的に授業が始まり実習など忙しい日々を過ごし、保育者になることを実感することができました。難しいこともたくさんありましたが、保育専門の知識を増やすことができ、充実した学校生活だったと思います。

- ・聖和では同じ夢を持つ仲間と一緒に、支え合いながら楽しく学ぶことができました。子どものことを1番に考える事や、大切に思う気持ちなど保育者として大切なこともたくさん学びました。参観実習や保育実習では実践的な学びをして、本当に保育者になれるのか不安になったけど、帰ってみるとみんな同じことを思っていて励まし合いながら最後まで頑張ることができました。沢山の知識や経験を得ることができましたが、まだまだこれからだと思うのでこれからも学ぶ姿勢を持っていきたいです。

- ・2年間聖和で保育について学び、基本的な知識だけでなく子どもたちの目線に立って考えることの大切さも学ぶことができました。同じ保育の道を進む友達が周りにいるからこそ、実習などで大変なことがあっても乗り越えることができました。コロナの影響で制限されたこともあり、しんどいことも多かったですが、なんとか2年間乗り切れたことを自信に変えて、保育現場に出ても頑張っていきたいと思います。

- ・聖和短期大学に入学してから、コロナの影響でほとんどがリモート授業やオンデマンド授業になってしまい周り顔が見えない状況での授業でしたが、慣れないオンライン授業の中で周りの人とSNS上ではありますが助け合いをすることが多く、人と協力することが大切だと改めて感じる事が出来ました。授業だけでなく授業外での学びも多く、自分にとって大きな力になったと思います。

- ・入学当初はオンライン授業で不安なおおかったです、オンライン準備でパソコン使えるようになったり、課題を効率よくするにはどうしたら良いか考えたりすることが出来ました。

- ・2年間保育のことを学んで、子どものことや保育のあり方、自分自身の保育観などを考えることができました。保育者になった時には、聖和で学んだことを十分に活かし、保育の質を高めていける保育者になっていきたいと思います。

- ・聖和では、保育者になるために保育について学んできて、自分がどのような保育を展開していきたいか深く考えることのできた2年間でした。保育者となる上で、子どもだけでなく保護者の方や地域との関わり、また、各関係機関などとの連携も取る必要があるため、たくさんの人との関わりがあることを学びました。また、実習では実際に子どもたちと関わり、さまざまな子どもと触れ合うことで、あらゆる対応の仕方を教わりながらできるようになりました。

- ・この2年はコロナ渦で大変な学生生活でした。パソコンもほとんどしたことない所から始まり、毎日課題を出すのに必死で、正直しんどいことだらけでしたが、どんどんやっていくうちにWordも少しずつできるようになり、社会で役立つ技術を少しはつけることが、出来たと思います。実習などでは保育者さんに沢山教えてもらいながら、命を守る大切さを学ぶことが出来ました。

- ・何よりも子どもと関わる時には自分自身から楽しめない子どもに伝わらないといことも学びました。

- ・短大入学当初は新型コロナウイルスによりオンライン授業の日々でしたが、徐々に対面授業で仲間と顔を合わせる事ができ、慣れない環境の中でしたが保育について学ぶことが出来ました。コロナが無ければ通常通りに使える部屋があったり、実習が行えたのかと思うと少し残念な学校生活でしたが、素敵な仲間や先生との出会いがあって聖和短期大学に入学して豊かな学びができて良かったです。

- ・聖和に入学した時からコロナが流行していて学校に通えない日が多く友達もできるか心配だった。しか

し、授業でのグループワークを通して色々な人と関わることができたし、話し合うこともできたのでよかった。パソコンの使い方も普通の生活を送っていれば滅多に使うこともなかったののでいい機会になった。

・半分以上がオンラインでの授業になったが、ズームや自宅学習では、自分のペースに合わせたり、何度も動画を見直した復習に取り組んだりすることが出来た。

・聖和では、現場での経験が豊富な先生方が多いので、働いてからのイメージが膨らみやすく、2年で就職、4月から担任、という不安が少し軽くなったので良かった。”

・コロナで学校に行けなくて悲しかったけど、様々な先生方と仲間達と意見を交換したら、聞いたりし、保育を学ぶ中で自分の人間性も育んでいけたかなと思います。一年の春学期は本当に課題が大変でしんどかったと今は思います。慣れないパソコンを自分で買って本当に辛かったけど、いまはなんでも自分でできるようになったののでいい機会だと感じられます。実習は本当に人生の財産だと言える経験でした。これからいろいろなことが起きるけど、大学で得た技術や経験を生かして頑張っていきたいです。

・コロナで始まり、コロナで終わる学生生活でした。不安と楽しみの中で、オンライン授業で沢山の課題を行うことはすごく私にとって過酷でしたが今思うと一生忘れられない学生生活になりました。その大学生の中で、自分自身が大きく成長できた場面は、実習です。保育者としてはもちろん、自分の態度や行動、目上の方への敬語など様々な場面から自分自身について見つめ直すことができました。また、保育者としての知識が全く無い中での実習は私の保育観や技術などより多くの引き出しを持つことができました。

・最初はオンラインばかりで、不安が大きかったです。毎日出てくる課題に対応できているのかも、内容があるのかも分からず、こなすのに精一杯でした。対面授業が少しずつできるようになりましたが、ほとんど実践的な授業はないまま実習にいったので、とても大変でした。しかし、実習で失敗しながら保育者としての力がつけられだと思えます。2年生になってからは、ほとんどの授業が対面になり、知識も学びも深めることができました。

・初めはオンライン授業やポータルでの課題提出ばかりで戸惑うことも多かったです、自分自身のスケジュール管理能力や今まで触れることのなかったパソコンに慣れることが出来ました。行事などがあまりできなかったけれど、少ない時間の中で同じ保育者を目指す仲間と実習や授業を頑張ることが出来たのは大学生生活での1番の学びだったと思います。

・入学したての時は、コロナでオンライン授業だった。不安も大きかったが、先生たちは私たちが理解できるよう工夫しながら授業を進めてくださっていたと思う。課題も多かったが、その分身に付いたと感じた。特に印象に残っているのは実習で、貴重な体験ができたと思う。辛い時もあったが、聖和で頑張ったことがこれから保育者として現場へ出た時に支えになってくれると思う。

・悩みがあるときは、先生が相談に乗ってくださった。わざわざ時間を作って話を聞いてくださったり、アドバイスをくださった。全体への対応だけではなく、個別で対応してくださったのが心強かった。”

聖和で保育者となるためにたくさん学ぶことができました。苦手なピアノを一生懸命練習したり、大変な実習、記録を頑張ったり、初めてのオンライン授業と不安なこともたくさんありました。コロナで不安なことがたくさんありますが、子どもとの関わりなどしっかりと学ぶことができ、さまざまな経験をすることができました。聖和で学ぶことができよかったです。これから保育者として頑張ります。

・コロナ渦でできないことも多く、一年生のときには友達にも会えず学校生活があまり楽しくなかったけ

れど、2年生になり、実習や、学校生活で充実してよい日々を送れたとかんじている。保育者になるための勉強をしてきて、座学が多かった分知識は蓄えられたと思うので、実際に春から保育の現場に出てその知識を活かせるように学びを忘れずに常に意識しておきたいと感じている。

・参観実習をはじめ、たくさんの実習に行くことができた。実際に自分の目で見て学ぶことは、文字や言葉で聞くよりも自分で考えながら学ぶことができ、自分の力に変えることができたと感じる。また、登校しての授業は例年より少なかつたかもしれないけれど、そこでできた友だちとの絆はとて深く助け合いながら過ごすことができ、卒業しても助け合える仲間に出会えたと感じる2年間だった。どんなことも自分たちで前向きな考えに変えられる力もついたと思うので、聖和での2年間は実りのある時間になったと思う。

・2年間を通して聖和で、相手を受容することの大切さや傾聴の姿勢、表現の方法など子どもや保護者と関わる上で重要なことを沢山学ぶことが出来た。これらの学んだことを活かしながら、自分の目指す保育者像になれるように保育者としてこれから成長していこうと考える。また、この学びの他にも現代社会のことや自分自身への考え方などについても学ぶことが出来た。これからも変化する社会について理解し、その時々に適した援助を行っていこうと思う。更に、自分自身を理解し、受容することも大切にしていこうと考える。

・この2年間は、新型コロナウイルスの影響で行動に制限がかかり、授業形態も対面授業からオンライン授業へと変更になり学びが例年とは異なりました。その状況下の中で不安や迷いがたくさんありました。しかし、振り返ってみると、アドバイザーの先生が親身になって相談にのってくださったり、教科の先生も対面で授業ができるよう努力してくださったり、授業内容も少しでも楽しんで学ぶことができるよう工夫している姿を見て、私たち生徒は色々な人に支えられているのだと実感しました。聖和で保育に関することを学ぶことができて幸せでした。

・約1年の学校の講義で学んだ後、実習へ行くという感じであった。2年間、土日を除くほぼ毎日学校があるという感じであったが、慣れてくると、濃い学びを得ることができたと感じた。少なからず、実習に対しての不安はあったが、無事に終えることができ、良かったと感じた。実習は、楽ではなかったが、後で振り返ると、園の保育者の方々は、日々、子どもの良い育ちのために保育を実践されていることを肌で感じることができたので、保育や幼児教育を学ぶ学校でしか、体験することのできない、貴重な体験をすることができて良かったと思う。

・学べば学ぶほど「子どもって面白いな」と感じる事が多くありました。ただ可愛いと思うだけでなく、自分自身も成長しているひとりの人間であり、その点では目の前の子どもと同じ生き物で、共に生きているのだと、保育者を目指す以前に人として考えるものがありました。また、先生方との距離が良い意味で近く、困った事や悩んでいる事だけでなく、何気ない話もしやすく、保育者として信頼関係を築くことの大切さについても学ぶことが出来たと今思います。お話を親身に聞いてくださった先生方にはとても感謝しています。

・私たちが入学する年は、今までになかったコロナウイルスが大流行するという異例の年でした。入学式も行えず、zoomでの授業や毎日出される終わりの見えない大量の課題など、、本当に一回生の春学期は病みそうに何度もありました。やっと秋学期から少しずつ登校できるようになり、改めて友達と会うことの

楽しさを実感することができました。実習などでしんどいことはたくさんあったけど、友達がいたから乗り換えることができた2年間でした！

・2年間で振り返ると、やはり1年次の春学期が一番辛かったと感じます。友達もいない中

課題も終わらずポータルで課題が配信される日々がともしんどかったです。秋学期からは友達もできて優しい先生方から保育について学び、とても充実した日々になりました。中でも友達への存在は大きく、実習で辛い時や苦しい時にはお互い支え合って頑張りました。これからは聖和で学んだことを保育に活かしていきたいです。”

・1年生の時は机の上の授業がメインで、実際に保育を現場に出て行う自分を想像することさえ出来ませんでした。でも、2年生になって保育所実習・幼稚園実習を経験し、振り返ると実習期間のおかげで1年生に学んだことの意味を知ったり、人間的にも強くなったり、人前に出ることに慣れたり、とても成長することができました。実習を経験しないと保育を行う楽しさ難しさや、自分のしたい保育に出会うことはできないと実感しました。

・聖和での2年間はコロナによって想像していたものとは異なる部分も多かったが、他校等に比べて対面での授業も多かったと感じる。また、実践や密接な関わりが重要な保育の学びにおいてコロナは大きな障壁であったものの、保育を聖和で学ぶことができ本当に良かったと感じる。

・聖和での2年間の学びを振り返って、1年生の時は対面授業もなく思い出作りが出来なかったのが後悔です。しかし、2年生になると実習も始まり就活も始まり大変だったけれど、友人と支え合いやり遂げたので友人の存在がとても大切であると改めて感じました。また、2年生ではさつまいもハンティングなど小さな行事でも楽しめることが出来ました。また、2年間で保育者になるために大きく1歩を踏み出すことが出来たのでよかったです。

・一昨年の四月はコロナウイルスにより通学することができず、自宅学習が余儀なくされ本当に病みそうな短大生活の始まりでした。しかし、先生方による工夫により保育の学習をすることができたと思います。短大生活を振り返ると少し前までは自宅学習が思い浮かんでいたが今では空きコマのことや芋ハンティング、ジャズを聴いたことなどを思い出すことができるようになりました。開学での入学式や授業は聖和短期大学の学生でしか体験できないことだったと思うと良かったと思います。一人ひとりへのクリスマスカードや楽しい思い出ができるように工夫したくださってありがとうございました。

・聖和での2年間は、とても濃いものとなりました。保育について色々な方面から学び、保育者という仕事の楽しさと責任の重大さを感じました。自分の中で実習はとても大きな糧となりました。上手く出来たことも失敗したこともあり、それぞれの経験を、保育者となった時に活かしていこうと思いました。また、子どもが好きだという気持ちだけで出来る軽い仕事ではないのだと感じました。これらの2年間で学んだことを糧にこれから社会人として頑張っていきます。

・私は聖和短期大学で、保育についての専門的な知識はもちろんであるが、一番は実践を通した学びが多いと感じました。実習であったり、教科の先生によっては体験しながらの授業を行っていたりすることからの学びが一番印象に残り、大きな学びであったと思います。一年の頃はオンライン授業が主であったため、あまり細かく学ぶことが出来なかったが、対面授業になり細かく学ぶことや、直接先生の講義を聞くことで学ぶことが多かったと感じました。ありがとうございました。



・私は、子どもが大好きで、保育士になりたいという理由で聖和に入りました。聖和で保育について深く学んでいく中で、自分が子どもたちにとってどんな先生になりたいのかを考え、目標を決めることができました。また、保育の中で大切なことは、子ども主体であるということであり、遊びや活動すべてに子ども目線に立って援助していくことの大切さを学びました。聖和で学んだことを大切に、子どもたちの心に向き合い、寄り添うことのできる優しい保育者になりたいです。

・入学してすぐにオンライン授業になり、不安でいっぱいでしたがオンライン授業の中でも先生方が工夫をしてくださり、たくさんの学びを得たことを実感しています。また、オンライン授業で大学に行っていない分、先生や友達に会っていないので大学生活の中で困ったことがあったときに相談できる人がいないのではないかととても不安でした。しかし、みんなとても温かくて実習や就職活動ではたくさんの先生や聖和の友達に相談に乗ってもらったり、励まされたりしました。このような恵まれた環境で学ぶことができ、さらに成長できた2年間になったのではないかと考えています。

・コロナ禍で一年生の時は主にオンライン授業で深い学びや友達同士での学びが出来ず思いが残ることは多いです。けれど何よりも実習に行くことができたことは本当に感謝しています。実習を通して学んだことは1番多く、しんどいことや辛いことも多かったけれど現場の保育者から多くの経験や学びを得ることができたのでよかったです。座学での勉強も大切だけれど1番は実際に経験して失敗や成功から学ぶことだということだと思いました。

・授業では実際に保育の現場で働いていた先生から経験を通して教わることができ、アドバイスや経験談を聞くことができ良い学びになったと思います。

コロナ禍で悩むことも多かったけれど大学で友達や先生と出会えて、学校に通えることの喜びなどを実感できました。ありがとうございました。

・聖和での学びは1年生の頃はほとんどがオンラインで行われ、大学生という実感が湧きにくい状況にありました。そのような中不安は大きかったのですが実習を終え少し自信が持てるようになりました。2年生からは学校で友達と話す機会も増え大学生になったんだとやっと感じることができました。実践的な授業のほとんどがコロナウイルスの感染防止のために減り、卒業するにあたって不安な面もありますがこのような時代にも適応できる保育者であることができるように努めていきたいと思っています。

・聖和での二年間は早く、凝縮されていたと感じている。流れるように過ぎていった日々の中で学びは多くあり、特に一日一日を大切にすることを学んだと考える。子どもとの関わりでも日々の積み重ねはとても重要になってくると考える。信頼関係や学びの積み重ねなど長い人生でも一日を大切にすることで良い方向に向かうことがあるということを感じた。聖和での二年間の積み重ねを胸に頑張っ歩いていきたい。

・はじめはリモートの授業で、思っていた大学生活ではなかった。1人で家で授業をするのは孤独で大変だった。けれども、学校に行けるようになる回数が増えて、教室でみんなで授業ができるようになったのは嬉しかった。友達と話し合っ授業をしたり、意見を直接言い合えることがよかった。実習もちゃんといけたし、たくさんのことを学ぶことができた2年間になった。

・聖和短期大学での2年間の学びの中で私の保育に対する考え方が大きく変わったと思います。実際に現場で働いていた先生方のお話を聞きながら受ける講義は説得力や想像力があがりこれからの保育に生かし

ていけることばかりでした。新型コロナウイルスで思うような学生生活を送ることはできませんでしたが、それでも保育のことについてたくさん学ぶことができてよかったです。聖和で感じた子どもと先生は対等であり、心から愛し守り育てるという心を大切にしたいです。

・1年生の間はほとんどずっとオンライン授業で大学生になったという実感もなく授業を受けていましたが、対面授業が増えていくと大学生感も出てきてより勉強に取り組むようになりました。保育に関する専門的な授業ばかりなので実習などで授業で習ったことを実践しやすくとても役に立つことが多かったです。卒業してからも授業で学んだことを振り返ると実践で活かすことができることを活かして頑張ろうと思います。

・保育の専門的な知識や、指針についてなど、保育に関する様々な分野を学ぶことができました。オンライン授業もあるなかで、先生方が工夫して授業をしてくださったので、多くの知識がついたと感じます。二年間で学んだ知識を活かすことができるよう、春から保育者として頑張りたいです。

・私は聖和に入学して保育を学び、自分の保育観を深めることができました。それは、自分自身の幼少期や家族、教育での出来事を振り返り清算することができたため、今考え方が大きく広がり、子どもを守りたい気持ちがさらに強まったのだと思います。授業を受けるたび、保育の形は過去から変わっているように思いました。変わり続けて醸成されていることは、変化が必要なほど傷ついた子どもや傷を負ったまま大人になった人が大勢いるからだだと思います。受けた傷を当たり前として次世代へ受け継がず、何度でも振り返って考える必要があります。じっくり変化していく社会の中で子どもや家族に寄り添いたいです。

・聖和での学びはあっという間に終わってしまいました。正直もう1年聖和に残りたい程です。聖和での学びで1番印象的なものは2年生の4月から7月にかけて行われた実習です。日誌の書き方や保育者としての振る舞いに悩んだり葛藤したりすることが多かったですが、その分保育者のやりがいや子どもに対しての対応等数えきれない学びを手に入れました。聖和での学びを生かしながら今月から始まる研修や春からの保育者生活に生かしていきたいと思います。

・コロナの影響でオンライン授業も増え、以前と同じような学びをすることが難しかったも多くあると思います。しかし、無事に2年間様々な方法で保育についての知識や技術を学び、全ての実習も終えることができました。ここでの学びや経験はこれから必ず活かすことができます。自信を持って保育者であると言えることができるように、聖和での学びを忘れずに精進して取り組んでいきたいです。

・私は聖和で子どもと関わる上での大切なことをたくさん学んだ。

実習ではたくさん子どもと関わり、どう接していけばいいかわからず悩んだ時もありますが、保育者の姿を見て自分なりに行動できたと思う。

二年間の中で大学に行って受けた授業は少なかったけれど、周りの子と一緒に最後まで頑張ることができて良かったと感じた。

4月から就職になりますが、聖和で学んだことを思い出して自分の保育観を大切に子どもたちと関わっていききたいと思う。

・正直、私は保育者になるために聖和に入った訳ではありません。ですが、保育に関する学びは全て興味深く、とても意味のある2年間になりました。聖和に来てよかったと心から思います。学びを機会をありがとうございました。春からも頑張ります。

・聖和で学んだことで様々なことを得ることができ成長できたと思います。今回の授業では2年間を動画とともに振り返り、思い出がたくさん蘇りました。2年間を通して見ると、コロナの影響で学校で過ごした時間は少ないかもしれないけれど、その中でも豊かな学びや楽しいことが多くありました。何よりも、聖和で素敵な仲間や先生に出会えたことが1番の宝物です。卒業は寂しいですが、聖和での学びに自信を持って今後も頑張っていきたいです。

・この2年間はあっという間であった。

1回の前期は、全てが初めてで何もわからないのに、全てがオンラインでの授業で、とても戸惑ったし、大変だった。だが、それは先生も同じ事であり、大変なのだろうなと思った。

後期では、2日に1回ではあるが、登校することができ、友達との距離が一気に縮まった。

2回の前期はほぼ実習だった。とてもしんどく、毎日泣きながら記録を書いて、逃げ出したかったが、共に頑張っている友達と、親身に相談に乗ってくださる先生に支えられて乗り切れた。

後期は本当に一瞬だった。友達との残り少ない時間を惜しむ時間であったと言える。

豊かな自然と素敵な先生方や施設がある聖和で学べて、本当によかったと思う。”

・聖和で2年間過ごして、保育における知識や技能も身に付けましたが、それ以上に人間性を高めることができたと思います。2年のうち1年ほどがオンライン授業になってしまい1年分しか通えませんでした。保育の意義や、保育をするうえで自分がどうあるべきかよく考えるようになり、内面的な部分が磨かれたと思います。また、先生方がとても寛容で助けてもらった部分がとても多く、これから現場に出たとき自分もそういう人でありたいと目指す像が見えるようになりました。

・2年間の学びを振り返ると、授業や実習を通して子どもに関する知識や技術をたくさん身に付けることができたと思います。

授業では実際にみんなの前で保育を行う、自分なりの保育を考えるといった実践的なことから、5領域や指針、要領を通した子どもを尊重した考えについて知り、場合によっては仲間と相談しながら考え学ぶことができました。実習では一日の保育の内容や保育方針、実践的な歌唱指導や手遊びなど知らなかった知識やできなかったことが、毎日の実習を通し少しずつ身に付けることができたと思います。

子ども観や保育観、保育者になることへの自覚や責任感など入学時には持っていなかった考えや思いを今では持つことができるようになったと思います。聖和での学びを活かしこれから子どもたちと向き合っていきたいなと思います。

・2年間で振り返って、コロナで思うように学校には通うことができない日もありましたが、子どもの成長について友達や先生と話し合ったり、皆で玩具を作りあい発表し合ったりして、コロナの中でも交流する機会を持つことができ、一緒に学ぶことができ良かったです。

授業や実習で学んだことを保育士になっても活かしていきたいです。

・聖和短期大学では、キリスト教保育を中心に、さまざまな保育のあり方について学ぶことができました。各園や、地域によって異なる遊び等を知って、これから子どもと一緒に成長できる先生になりたいです。

・この2年間は、オンライン授業と対面授業のそれぞれの良い所と悪い所を知れた年だなと感じます。それと同時に、学校に来れることの嬉しさや、対面で授業ができることは当たり前じゃないのだということに気付かされた年でもありました。また、高校では学べない、保育に関しての専門的なことを学べたり、

実習で実際に保育士の仕事や子どもたちの様子を間近で見たり、責任実習で実際にやってみて自分のできていない部分を知ったりなどして、大変なこともありましたが、保育の魅力を感じたのと同時に、聖和で保育のことを学べてよかったと誇りに思える学校生活でした。

・私は二年間、聖和短期大学で多くのことを学びました。聖和の魅力は、子どもに寄り添いつつ、子どもが既に持っているさまざまな力を引き出すという保育を学ぶことができるところだと思います。また私たちに保育に関わる知識や技術を教えてくださると共に、保育者として求められる人間性をも育んでいただけたところだと思います。新型コロナウイルスの影響でオンライン授業や行事の中止等はありませんでしたが、私は聖和で保育を学ぶことができよかったと思っています。

・二年間での聖和での学びを振り返って、コロナウイルスの中での大学生活は、嫌なこともあったけど、それも思い出です。オンライン授業は、先生方がたくさん準備を下さって、学ぶことができました。ですが、私の後悔はもっと聖和に触れたかったなと言う感想です。先生が、最後の動画で冬の雪の聖和を見せてくれた時、聖和にこんな景色があるんだと驚きました。去年、見れなかった分今年の2月か3月、見に行こうと思います。聖和で2年間じっくり学んだ保育は、これからの保育士という場でしっかり活かして行きたいと思っています。

・最初の方はオンライン授業で不安や心配も多かったが徐々に学校に行けるようになり友達も増え、授業も対面で出来るようになったため勉強もやりやすくなり知識も向上したと思いました。また対面することによって質問が気軽に出来るようになったことや決まった時間に勉強をすることが出来たため良かったと思いました。聖和で学んだことは社会に出てからも大切なことばかりだったので忘れないようにしようと思いました。また充実していて良かったと思いました。

・私は、二年間の聖和での学びを通して、理想の保育者像が180度変わりました。はじめは「物知りで色々な事を知っていて、子どもになんでも教えてあげられるような先生になりたいな」と思っていました。しかし、乳幼児期の子どもに必要な援助は、分からないことを教えることではなく、遊びや生活の中で自らが気付いたり、考えたり、試したり、意欲をもって取り組んだりすることのできる、環境を与えることなのではないか、と思いました。これは、保育室の環境だけでなく、子ども同士の関わりや、保育者のかける言葉も同じです。千葉先生がよく話す、「どうしてお花は咲くの?」「どうして雨は降るの?」といった子どもの純粋で素朴な質問に対して、保育者の正しい答え方は一体何なのだろう、とずっと悩んできました。この答え方に正解があるかは分かりませんが、子どもの「気づき」が素晴らしいものであることを伝えたり、「どうしてかな」と寄り添ったり、時には「どうしてだと思う?」と考える機会を設けたり、学びを深められるように自然の図鑑を保育室に置いてみたり、保育の活動に取り入れてみたり…。保育者の役割は答えを教えることではなく、子どもが主体的に学ぼうとする姿勢を、周りの環境を通して全力で支えることなのだと思います。

聖和で学んだことはもっともっと沢山ありますが、全部は書けないので一つだけにしました。文字数が多くなってしまっごめんなさい!

・聖和での2年間を過ごして、友達と過ごせる学校生活がとても大事なものだと感じた2年間でした。コロナで1年生の春学期はオンライン授業になりほとんど友達が来ていない状態で半年が過ぎて学校に行くこともほとんどなく、あっという間の半年でした。秋学期からは対面授業が始まり学校で学べる楽しさ、

自然豊かな過ごしやすい環境で保育士になるための勉強ができて、実習中も支えてくださった先生方には感謝しかありません。

オンラインと実習期間を除いたら1年くらいしか学校での授業は無かったけれど、とても充実した2年間でした。

・私が2年間、聖和で学んだことは、まずは保育者になるにあたって、子ども主体でのびのび成長できるような保育してあげること。また善悪をしっかりと伝えてあげること。子どもを否定しすぎないことなどこれから保育に携わる人間としての基礎を学びました。これからゆっくり経験を積み、自分も子どもと成長できるような保育をしたいと思いました。また、同じ夢を追いかける友達とお互いに気持ちを伝え合い考えを交流し、様々な考え方を自分の中に取り込むことが出来ました。同じ夢を追いかける人間同士でしかできないことができました。

・この2年間で保育者の難しさとやりがいを感じました。最初保育者を目指した理由の一つは子どもが好きというだけの理由でした。ですが授業や実習を通して、子どもが発達発育などさまざまなことに置いて成長のできる時期を担う保育者の難しさ、また子どもの成長を身近で見れるやりがいを知りました。子どもがどう成長するか保育者の保育方法や環境、人的環境など聖和で学んだことをいかして子どもに寄り添える保育者になりたいと聖和で学び思いました。

・コロナとゆう言葉がどれにも付く2年間でした。想像していた学生生活とはかけ離れたものでしたが、保育者になるための学びとして、とても意味のある2年間だったと思っています。コロナ禍でありながらも行っていただいた全ての実習が、私の保育観や保育への興味を育ててくれました。また、先生方も私たち学生の生活を少しでも楽しいものにしようと、様々な企画をしてくださり、思い出のあるものになりました。子どもと触れ合って、保育をしていくことがとても楽しみです。2年間、本当にありがとうございました。目指す保育者になれるよう、保育者として日々スキルアップしていきたいです。

・オンライン授業から始まり、課題の多さに驚き、大変な思いをしましたがそのおかげで、パソコンの使い方が分かりタイピングが速くなることができました。対面授業では、いろんな先生が現場で体験したことを話してくださったおかげで、現場を想像しながら学ぶことができたのでよかったと思いました。また、先生は親身になって相談に乗ってくださって、温かい大学だと思いました。ありがとうございました。

この二年間は、コロナが蔓延したことにより、「対面」という当たり前だと思っていたことに対して感謝の気持ちを感じることが出来たとともに、人と人が直接会ってコミュニケーションを取ることが、成長する上で非常に大切なことであると学ぶことが出来た。当たり前だと思っていたことは全て恵まれていたことだと気づくことが出来た二年間だった。また、子ども達と触れ合ううえで、一人一人の個性を汲み取る力、それに応じてできる限り寄り添う姿勢が何より重要だと学ぶことが出来た。先生方への感謝を胸に保育者として懸命に働いていこうと思う。

・聖和での2年間の学びを振り返ってみると、私の保育観の土台をしっかりと固めてくれたと思います。将来目指す保育者像は人それぞれだと思いますが、聖和で学んだ一人ひとりが自らの保育観を確立させることができたのではないかと思います。

もう一つ大きな学びとなったのは、保育者としての視点です。これまで子どもに関する悲しい事件を見る度、加害者である保護者を批判してしまっていました。しかし、保護者にも事件に繋がる背景があるこ

とを聖和で学ぶ中で知ることができました。個人的にとっても大きな学びだったと思います。

・2年間聖和で学んだことは沢山あります。保育の専門的な知識から人として大切なことも学ぶことができたと思っています。聖和の先生たちや聖和の友達はとても優しく、暖かい人が多く、実習や課題なども懸命に取り組むことができました。そのような環境の中で学ぶことができてとても楽しかったし、最後の学生生活が豊かなものになったと感じています。友達の発表から得た、手遊びや制作活動のアイデアや先生から学んだ保育者として大切なことはこれから保育園で働く上で活かしていければと思います。

・2年生になって対面授業が増えたため、クラスの子と一緒に講義を受ける楽しさや聖和の森に行って自然を採り入れた遊びを考える楽しさを心から感じられた。この聖和で学んだことを保育の現場に出た時に役立てていき、目標とする保育者になれるよう努力していきたい。

・2年間の学びは、とても早かったように感じますが、濃かったです。初めは、オンラインのズームや課題をこなして、想像していたキャンパスライフとは違ったかもしれませんが、少しずつ保育についての考えができていたり、良さを掴んでいけたり、同じ夢に向かう友達と一緒に乗り換えたり、というように授業だけではない学びがとても多かったです。正直まだ自信はなく、不安なことばかりですが、聖和で2年間を過ごせてよかったと感じます。ありがとうございました。

・1年生の頃はオンライン授業でほとんど学校に行けない中で、大量に課題が出て、7日間一歩も家から出ないこともあり、毎日本当に大変でした。2年生になると実習が始まって、疲れて帰ってきて記録をするというとてもハードな日々が続きました。そんな中で、一番支えになったのは、みんな同じだということでした。聖和は保育科しかないのも、自分がしんどい時はみんなもしんどい時で、助け合いながら乗り越えてきました。

・2年間が本当にあっという間で、気づけば卒業で、寂しさが沸々と込み上げてきています。もっと対面をして、もっとたくさんの友達や先生と話して仲良くなりたかったなと思います。

卒業したらほとんどの人が保育の仕事をすると思うので、これまでの経験をもとに、聖和でできた仲間とまた一緒に頑張る子どものために働きたいとおもいます。

2年間ありがとうございました。”

・2年間の聖和での学びを振り返って、私は、保育の知識が全くないところからスタートしたのが、今は保育の専門知識を獲得したり、真似したい保育観や実習先や大学の先生方の子どもへの対応などを吸収しようと思ったりして、2年間で成長できたと思いました。これから園で働く際に、この専門的な知識や保育観を大事に頑張っていこうと思いました。

・私たちは、友達や先生の顔を知らないという環境の中で学生生活が始まりました。もちろん、聖和の先輩方に比べると豊かな環境が整っている大学の中で実践的な科目が学べなかったことが少し心残りではあります。しかし、そのような時間を乗り越えた今だからこそ、相手と顔を見て話せることがこんなにも楽しい、嬉しいことだと気付くことができました。そして、沢山の人の出会いや繋がり、相手と会える時間を更に大切にできるようになると思います。それらを忘れずに、保育者として子どもと関わる上で、気持ちに寄り添い、共に成長できるようになりたいです。

・2年間の聖和での学びで特に印象に残っているのは、事前事後指導と実習です。私は高校で保育の授業をとっていなかったり、幼少期は幼稚園に通っていたこともあり保育園に行ったこともなかったので子ども

との関わり方が全然わからないまま聖和に入学したので、授業や実習についていけるか正直とても不安でした。ですが、たくさん先生方に子どもとの関わり方や保育者の働きかけを学び、子どもや保護者に信頼される保育者になりたいと思えるようになりました。聖和で保育を学んで本当によかったです。

・入学当初はオンラインばかりで課題も多く、友達もできず、本当に不安ばかりの日々でした。このままの状態でも保育者として働くことになるかもしれないという不安が本当に大きかったのですが、何とか対面授業ができるようになり、実習もすることができて良かったです。実習が一番私の中で印象に残っていて、保育者と子どもとの関わりや、一日の様子を実際に見せていただくことで、保育の仕事のイメージがとてもつきました。保育は子どもと保護者のためのものであるということを忘れずに、春から頑張りたいと思います。

・1年時は、オンライン授業が多い中、課題の確認など友人との連絡の取り合いが難しく、不安でいっぱいだったが、レポートを仕上げているうちに日々文章力が上がり、保育に必要なスキルを身につけられたのではないかと思います。

・ピアノの授業など、保育の現場で使うことが多いリズムなどを練習し、私達が社会に出たときに困らないように、熱心に指導してくださり、とても学びになりました。

2年時から、対面授業も増え、友人と話し合いをしながら、実際に遊びながらなど、実践活動を取り入れた学びも増え、文章だけのときよりも、現場の感覚や、雰囲気を感じることができ、分かりやすく授業に取り組むことができました。

・保育の専門知識などはとても身についたと感じます。実習もあり、とても勉強になったことが多くありました。ただ、聖和に入学してからの思い出は残念ながらありません。正直、20年間の中で一番とても悔しくてつらい2年間でした。でも、これからの進路はとても楽しいことばかりなので、全力で楽しもうと思います。

・保育者として必要な知識や技術を学んだ上で、実習で実践することができた。実習記録では自分の行動を振り返る中で、良かった点や反省点を見出し、そこからより深い学びや新たな学びへとつながった。

また、聖和での学びを通して、保育者として必要な知識や技術を学ぶだけでなく、感性や表現力も育むことができた。このことは、今後保育の場で働くときに役に立つと感じた。

聖和の先生方は保育の現場で働かれていたので、実際に経験したことを踏まえた授業はより深い学びになった。

・まず1番感じたのは文章力が身についたということである。初めて書くレポートに初めは苦戦したけれど、この2年間で文章を書くことが早くなったと感じるようになった。また保育の表面上の仕事だけでなく、そこに隠された保育者の思いや保育の深さを学ぶことができ、より保育者という職業に誇りを持つことができた。コロナ禍で例年と比べ人との関わりは少なかったものの、保育者を目指すみんなや経験を持った先生方がいたからこそより保育の魅力を感じ、学ぶことができた。またこれが聖和の魅力や良さなのだと思う。

・1学年の大半がオンライン授業で最初は不安で仕方がなかった。Wordの使い方、zoomの使い方、ポータル機能など知らなかったことをたくさん学べた。難しかったこともたくさんあったがこれらは決して無駄にならないと感じた。乗りきることができた。また、オンライン授業が続いたからこそ対面で授業ができ

ること、友だちと同じ教室で学ぶことができる喜びというものを改めて感じた。そして、たくさんの配慮があつて対面授業ができたことに感謝したい。

・私は、聖和で子どもたちが主体の保育を学ぶことができました。私が思っていたのは、保育者が主体となる保育だったので、初めて子どもたちが主体の保育を知ることができました。聖和の森から聞こえる子どもたちの声を聞きながら授業ができる環境には本当に魅力を感じていました。子どもたちにとって、保育者はどのような存在でいなければならないのか、子どもたちが主体として活動ができる保育とはどんなものなのか、ということ卒業しても忘れてはいけないと強く思う3年間でした。

・保育士としての1から10を全て聖和で教わりました。実習で実際の現場にはいり、子どもが好きだけではやっていけない職業だと対人関係の難しさを実感しました。だからこそ保育者という職業にさらに魅力を感じることが出来ました。

・コロナ禍での授業はとても辛かったです。入学後、遊ぶことなく毎日課題に追われていましたが、やらなければいけないことを自力で乗り越える力がついたらとおもいます。また、マスクの生活が続き、マスクの上からでもわかる笑顔が伝わるように会話することを意識できたので、子どもの前でも笑顔で過ごすことができました。

・聖和での2年間は、新型コロナウイルスによって大きく変わってしまった部分もあったと思います。でも、私は聖和に来て、子どもと関わることの意味と楽しさ、面白さをたくさん学びました。また、先生や友達、人と関わるのがいかに重要であるかについて考えたり、自分自身の生き方を見つめ直すこともできました。これは、本当に聖和という場所やそこにいる人のおかげで感じる事ができたのだと思います。聖和での生活が、1日でも早く本来の姿に戻ることができますよう祈っています。

・2年間の聖和での学びを振り返って、新型コロナウイルスの影響により1年生の時はほとんどがオンライン授業で、体育や実技の授業を学校で受けることは出来なかった。けれども実習は期間が短くなることはあったが、友達や先生のサポートのおかげで無事に終えることが出来たと思う。2年生はほとんどが対面授業になり、学校に行って友達と楽しく学ぶことが出来て良かった。自然豊かなキャンパスで同じ夢に向かって頑張る仲間がいる、素晴らしい環境で学べたことに感謝したい。

・コロナウイルスの影響を受けて、1年間分も大学での対面授業を受けることが出来なかったのではないかと思います。しかしそのような中でも、保育者になることを目指す友達と出会えたことが聖和に入学して良かったことだと感じます。実習などを通じて、辛い、やめたいと感じてしまった時もありましたが、友達と支え合って、子どもや保護者との関わり方や、遊びの大切さを学ぶことが出来ました。辛いことも乗り越えることができた経験が、今後、自分の力になると思いました。

・手遊びや絵本の読み方、ピアノなどの技術面はもちろんそれ以外に、子どもについての知識をよく学んだ。子どものことをよく知り、考えること、また保育士になった際に欠かせない記録の書き方も学んだ。同時に記録の大切さも学んだ。保育に関する専門的知識や技術においては、環境構成の大切さを知った。子どもの環境を構成することは、保育を行う上で中心となることも学んだ。また、保育は子どもが主体となって行うこと、子どもは主体的な存在であること、子どもと関わる際は見通しを持って関わることなど、大切なことをたくさん学べた。いろいろな先生の持っている保育観は少しずつ違っていて、いろいろな先生の良いところを吸収して自分の保育観が出来上がっていった。コロナ禍で友達ができない不安もあった



が、いい友達に出会えて、同じ道を進む仲間として同じ目標に向かって歩むことができ、これからも支え合っていきたいと思える存在ができて良かった。どの授業においても大切なことがたくさん学べて、聖和にきて保育のことを学べてよかったと心から思う。

・私たちは短大生活が始まった時からリモート授業ばかりで、正直学校に行き勉強している方がもっと色々なことを学べたのではないかと思います。ただ、コロナ禍で授業をすることが難しい中でも先生方が工夫してくださったおかげで、通常通りまではいなくても、学べることが出来ました。実習に行けたことも私にとっては大きかったと思います。講義だけではわからなかったけれど、実際に子どもたちと関わる中で、保育を自分の目で見ることで得られた知識がたくさんあります。聖和短期大学で学べて良かったです。ありがとうございました。

・正直、1回生の時はオンライン授業が多くて今でも学びきれていないことが沢山あると思う。「実際にやってみる」という経験が私たちは少なかったため、社会に出るのは怖い。それでも無事に実習を終え、ここまでこれたのは先生たちのサポートと友達のおかげだと思う。オンライン授業の時はみんなで朝起こし合って急いで出席して、実習の時は「辛かった、今日も子ども可愛かったけど辛かったんだよね」と愚痴を聞きあって毎日励まし合い乗り越えてきた。ここで出会った友達、仲間たちとはこれからも支え合いながら頑張りたい。今まで生きてきた20年の中で最も早くても最も充実した2年間だった。本当に楽しかった。

・2年間の聖和での学びで、保育者にとって大切な知識や技術も学んだけれど、子どもにとって乳幼児期がどれだけ大切かを知ることができました。子どもの大切な時期を私たちが大切に見守り、豊かな直接体験ができ、遊びの楽しさを知ってもらえるような関わりが大切だと思いました。私が保育者になった時に、聖和で学んだことを生かして頑張っていこうと思いました。ありがとうございました。

・私は聖和短期大学で2年間沢山のことを学ぶことができました。1番印象に残っている学びは保育所実習、幼稚園実習、施設実習などの実習での学びです。短大の授業で学んだことを活かして、実習に取り組みました。でも、授業では学ばなかったことがたくさんあり、実習でしか経験できないことは本当に貴重な学びだと感じました。責任実習や実習記録など大変なことも多くありましたが、それ以上に沢山のことを経験することができたので、私にとって1番印象に残った学びです。

・私は、この2年間、聖和での学習を振り返って1番思い出すことはやはり実習です。とても辛くて大変で楽しかったです。ただ、その実習期間を支えてくれたのは、聖和と一緒に学んだ仲間だと思います。会えなくてもそれぞれ頑張っていると思いながら私も頑張れたし、お互いに連絡を取り合いながら頑張りました。聖和に来て良かったなと思える1番の理由は、聖和の友達に出会えたことです。コロナ禍であまり登校できませんでしたが、それでも仲良くなれて、これから別々の場所で一緒に頑張れる仲間ができたと思います。

・聖和に入学した当初は保育に対する知識はそこまでなく、ぼんやりとしたイメージが多かったのですが、聖和において専門知識などを多く勉強して保育についてよく知ることが出来ました。特に環境については、入学当初は自然環境についてのことばかり重要視していましたが物的環境や人的環境も同様に重要なのだということを知りました。やはり私は私の主義として自然環境に触れることがとても大切だと思っていますが、物的環境や人的環境も大切にしていきたいと思っています。

・2年間、聖和で学んでよかったと思いました。私たちは、新型コロナウイルスが流行し始めたときから学校に通い始めました。ただひたすら課題をして郵送したり、慣れないオンライン授業したり、思っていた大学生活では全くありませんでした。しかし、先生方がたくさん工夫してくださり、少しでも私たちが楽しめる学校生活を与えてくれました。圧倒いう間の2年間でしたが、いい思い出となりました。この思い出を大切にしながら、社会に出ても努力していきたいです。

・自分は保育者という道に進まなかったが、聖和で2年間学んだ「子ども」についての知識や幼児保育の実態、など子どもの保育についてたくさん学ぶことができた。自分は保育者にならなくても、将来自分に子どもができた時や、周りに子どもができた時、聖和での学びを生かし、自信をもって子育てできるのでは無いかと思う。また、コロナでたくさん制限されてきた恵まれない中でも、コロナがあったからこそ体験できた事もあるという事を忘れず、これからの自分につなげていきたいと思った。

実際、この2年間思うように保育に対する学びが出来たかと問われると決してそうではありません。実習の時期が短縮されたり、関わる事が制限される中での実習だったり悔しい思いをする場面がたくさんありました。ただ、コロナ禍だから学べたこともあり、そのひとつとして私が思うのは、目だけで表情を読まないといけないので、常に気を緩めてはならないという事です。口角は上がっていて怒っていないつもりでも、疲れが出ていて目つきで現れたりなどと、今まで意識したことがないところに気付くことができたように思いました。

・2年間コロナで対面授業や実践授業がほとんどなく、社会での不安が大きいです。ですが、限られた中で講義や実習に参加し、経験したことがこれからの私の力として繋がると思います。この学びを活かして社会で活かして行けるようにしたいと考えました。

・一年生の時はオンラインや課題ばかりで、なかなか対面での授業はできなかったけれど、保育士になるために必要な考え方や知識を身につけることができたと思います。保育士という職業について、私はあまり理解しておらず、子どもと関わる事が楽しいので保育者になろうと思っていました。保育者になるためにはたくさんの学ぶべきことがあり、広い視野でさまざまなことを見なければならぬと学びました。ここで学んだ保育士になるための知識を忘れずに、頑張りたいと思います。

・2年間の聖和での学びを振り返ると、私は保育について多くのことを学び、新たな視点で物事を考えることが出来た。

・高校でも保育に関しては選択授業などで学んでいたが、そこで得た知識以上のことをこの聖和で学ぶことが出来た。施設実習や教育実習、保育実習が上手くいったのもこの聖和での学びがあったからだ。また、虐待や児童福祉施設についても新たな視点で考えることが出来るようになった。

この聖和で学んできたことを存分に活用しながら、4月から保育者として頑張っていく。

・聖和に入る前たくさんの授業や模擬保育など沢山できると期待していたのに、コロナで授業が潰され、実習期間も短くなったりと本当に保育者になれるのか不安しかありませんでした。しかし、コロナ禍の中でもできる範囲の授業を先生方がしてくださり、施設・保育園・幼稚園実習を何とか乗り越えることが出来ました。私は施設実習の時、保育者は向いてないと挫折しましたが、周りの友達や先生方に励まされて4月から幼稚園教諭として働きます。

友・達のおかげで学校生活を楽しく過ごす事ができたとし、コロナ禍でもできる保育で困らない手遊びや遊

びを教えてくださいまして本当に良かったです。

聖和での学びを無駄にしないように、4月から1人の保育者として頑張りたいと思います。

・聖和での授業や実習を通しての学びはもちろんたくさんありましたが、はじめてのオンライン授業や、使い慣れていないパソコンでの課題など、分からないことや不安なおおすぎるなかで、ほとんど画面上でしか会っていない友達と助け合いながらこの2年間を過ごせたこともとても深い学びだと感じています。人との関わり方に新しい考えを持てるようになり、とても良い学びになったと思っています。

・保育者になるための本質的な部分や基本的な知識、現場での実践力を身につける事ができたことはもちろん、人との関わり方や礼儀、社会人になった上での心構えなど、広い分野で様々な学びを得る事ができたのではないかと思います。保育者にとっても、いち社会人としても大切なことや必要なことも学ぶことができました。1番は、保育科に通いどのような保育者になりたいかということ深く掘り下げ、自らの将来の理想像などをよく考えることができたことが良かったです。保育科に通い学んだ全てのことを社会に出て活かしていきたいと思いました。

・2年間でたくさん学ぶことができました。コロナの渦の中でしたが先生方の保育の経験を踏まえた話を聞き自分自身で考えを深めることができました。聖和に入学する前と学んだ後で保育に対する考え方は大きく変わり、人としても大きく成長できたと感じています。まだまだ未熟なところがある中で就職はとても不安がありますが、学んだことを踏まえて子どもと一緒に成長していきたいと思っています。

聖和は近くに幼稚園や保育センターがあるため、子どもたちの声が身近に聞こえてくる中で保育について学ぶことができるのが、よい学びに繋がったと感じました。また、聖和での2年間は、コロナで思うようにいかない2年間でもあったと思うけれど、先生や友達にも支えられながら、慣れないオンラインでの授業でもたくさん学ぶことができ、コロナ禍での実習も乗り越えることができました。

・この2年間では、特に実習を通して子ども達と直接関わることで保育者という仕事について学ぶことができました。保育園、幼稚園、児童養護施設、児童館と4つの実習に行き、それぞれの場所で様々な年齢、性格の子ども達と出会ったことで援助の仕方や将来自分の目指す保育者像というものが分かってきたような気がします。各実習での経験一つひとつを自分の糧としてこれから保育士として努力していきたいです。

・私は、聖和短期大学で子どもを愛し、子どもの気持ちを受け止めた保育の大切さを学びました。キリスト教を通して、聖書や讃美歌に触れ、子どもを愛する心を学びました。また、聖和は実際に保育現場で働いていた先生が多く、現場での経験を聞くことでより詳しく保育業界について知ることができました。他にも、進路での相談や、実習中での不安に寄り添ってくださり、心の支えになりました。そして、私も子どもたちの気持ちに寄り添える保育士になりたいと強く思いました。

・聖和短期大学で2年間学べて本当に良かったと思っています。1年生のときはいきなりオンライン授業で、先生とも仲間とも直接話すことができず、ただ課題をこなす毎日不安でいっぱいでした。しかし1年生の秋学期から対面授業が増えて先生とも仲間とも直接話すことができるようになり、キャンパスにも行くことができあたたかい人ばかりに出会えてとても楽しく学生生活を送ることができました。実習で心が折れそうになったときもそばに友達がいてくれてお互いに支えあえたからこそ乗り越えられたと思います。聖和での学びを今後現場で活かしていきたいです。

・聖和短期大学での2年間を振り返ってみて、コロナで学校に半分ほど来ることができなかつた分、正直

心残りな部分はありますが、とても温かい先生と友達に囲まれて保育について様々なことを考え、学びながら自分たちの将来の夢に向けて、支え合いながら成長することができたと思います。この2年間を通して、同じ目標や夢に向かって頑張る仲間の大切さを本当に身に染みて感じる事ができて、とてもよい学びになりました。

・私は実習で多くのことを学ぶことができました。参観実習から始まり、施設実習・保育実習・教育実習を経験して、実際に保育現場に立ってみることで授業では学べないことを学ぶことができました。また、授業で学んだ発達のことなどを実習で実践することができ、聖和で学んだことを活かすことができよかったです。就職先の園は、また実習で行った園とは色々違うと思いますが、実習や聖和で学んだことをしっかりと活かしていけるようにしたいです。

・この2年間は、コロナの影響でできなくなってしまったことが沢山あった。そのため、本当にこのまま卒業・就職してやっていけるのだろうかと不安を抱くことが多々ある。しかし、例えば環境構成の難しさや報告・連絡・相談の重要性やコミュニケーションの大切さなど、コロナだからこそ経験できたことや学べたことも沢山あった。また、実際に実習でコロナ禍の保育を体験したことにより、テレビやニュースで取り上げられているコロナ禍における保育現場の課題についても、より意識的に考えられた気がする。この2年間だったからこそ得られたものを現場で活かせるよう、これからも大切にしていきたい。

・コロナウイルスの影響で一年生の頃はなかなか登校できず、不安なことがたくさんあったけれど、幼稚園実習や保育園実習に行き、改めて保育者の大変さを実感しました。このご時世なので感染対策なども考えて保育をしないといけなかったのも、とてもしんどかったです。ですが、実習を通して保育者のやりがいを感じたし、学校で学んだこともたくさん活かせたので良かったです。

二年生は登校できる回数も多く、対面で授業ができたので保育のことに关してより具体的に学べたと思います。

・2年間のあつという間の聖和での学びを振り返ると、専門的な知識や技術をぎゅっと凝縮して学ぶことができた2年間であったと思います。最初は対面での授業がなく、オンラインのみでの授業であったため不安がとても多かったけど、同じ目標に向かって一緒に頑張ってる仲間存在に助けられました。いろいろなことが制限された中での学生生活ただただ、それを乗り越えた学年というのが自分自身の強みになっているのかもしれない。

その中でも、コロナ禍で行った実習は大きな学びにつながりました。実践的な学びをこれからの保育現場で十分に活かしていきたいです。”